

グループホーム レインボー21(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 5 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870101118
法人名	特定非営利活動法人 福井福祉医療開発研究所
事業所名	グループホーム レインボー21
所在地	福井県福井市高木町82-45 (電話) 0776-57-2800

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽 2-3-22		
訪問調査日	平成19年4月20日	評価確定日	平成19年5月28日

【情報提供票より】 (19 年 4 月 1 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22	常勤 5 人、非常勤 17 人、常勤換算 16 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円(光熱水費)	
敷金	有 (円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (90,000 円)	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要 (4 月 1 日 現在)

利用者数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5	要介護2	9
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 81.9 歳	最低 50 歳	最高 90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富永病院 安川病院 かさまつファミリークリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは国道沿いの大型商業施設を中心に開発が進んだ地域に近接し、今年になって自治会が発足したばかりの新興住宅地に立地している。建物は鉄骨3階建てで、1階が小規模多機能型居宅介護事業所、2、3階がグループホームとなっていて、通いの部門との連携、利用者同士の交流が日常的に行われている。運営主体は特定非営利活動法人で、医師や建築家等で福祉に関心をもつ専門家が参画していることから、建物の構造や運営に利用者本位のこだわりがみられる。また、職員配置が手厚く、研修や体調を考慮した勤務調整が柔軟に行われており、職員の向上心や信頼関係に良い影響を与えている。共有空間はゆったりと落ち着いた雰囲気、お気に入りの自分の作品に囲まれ、利用者は家事や得意なこと役割を担いながらその人らしい生活が営まれている。管理者は地域密着を目指してボランティアや実習、見学等を積極的に受け入れてきており、グループホームへの理解は徐々に広がってきている。しかし、新興住宅地での地域交流は課題も多く、今後、散歩等の外出で地域の人たちと挨拶や言葉を交わす馴染みの関係づくりを深め、さらに運営推進会議や自治会活動を通じて地域との協働関係を持ちながら、地域の人たちとの交流を定着させていくことが大いに期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善点として挙げられた課題に、職員全員で検討し、取り組まれている。特に「運営理念の見直しと掲示方法」については、地域密着型サービスとしての方針をわかりやすい言葉で表現し、ホーム内の数箇所に目に付くよう掲示している。さらに利用者自身が願う生活目標についても掲示されている。また「地域社会との交流促進」については、利用者の散歩や美容院の利用等積極的に地域に出かける取り組みを行っている。管理者は地元自治会に対し加入の働きかけも行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>これまでの自己評価を通じて、職員は評価の意義や目的を理解している。管理者を中心に多くの職員が自己評価に参加し、利用者本位のケア、情報の共有等再確認の機会となっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は準備段階であるが、6月に開催される予定である。地域の代表者や市関係者等の協議により、サービスの質の向上に繋がる事が期待できる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族の意向や苦情に対してはその都度職員で話し合いを行い、利用者本位のサービスに繋げている。日常生活状況を把握してもらうため、家族の面会時に生活記録を見てもらい説明を行うとともに、相談も受け家族の不安に応える取り組みをしている。家族会があり、利用者と一緒に外出や食事会の機会を設けているが、家族同士の連携を図ったり、運営への参加等については今後の取り組みとして期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に地域に出かけたり、ボランティアの受け入れを積極的に行い、グループホームへの理解が徐々に広がってきているが、地域の自治会は発足したばかりでグループホームの加入は見送られている。これまで顔馴染みになった人たちの繋がりがりやこれからの出合いの積み重ねを基に、今後地域の特性に合わせた交流や連携を工夫しながら進めていくことを期待したい。災害や非常時の支援体制の一環として、近隣社会資源の協力を働きかけることも考慮されたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価後、職員間で話し合い、利用者の尊厳と地域性を重視した理念をわかりやすい言葉で作直し、事業所の要所に掲示している。また、利用者ともどのような生活をしたいかを話し合い、利用者の言葉で目標を作り、1年間の生活指針としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングや日々のケア場面において、理念に沿ったケアの実践に向けて気づいたことを職員と共に話し合っており、理念の共有と実践に取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住民同士の繋がりがまだ薄い立地条件ではあるが、散歩時の挨拶や地域の美容院の利用、中学生の職場体験等積極的に地域との関わりに努めている。その成果が徐々に実り、顔馴染の住民も増えてきているが、新設の自治会への加入、地区公民館の協力等の働きかけはまだ実を結んでいない。		設立以来グループホームの理解を深めていく取り組みが行われている。今後も利用者の思いに添ったり、安全面でも支援が得られるよう地域の特性に沿った積極的取り組みを期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、過去2回の評価を通してその意義・重要性を理解し、真摯に取り組んできている。改善に当たっても職員全員で協議し、具体的改善を実現させている。職員のヒアリングにおいても評価の意義の理解や取り組みを確認することができた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や民生委員等の地域の代表者に対して、運営推進会議の意義を説明、委員としての参加を依頼し、6月開催の準備を行っている。以後は、偶数月の第2土曜日の開催を予定している。		運営推進会議が地域の代表者や利用者・家族の意見を得て、地域との交流やサービスの質の向上に資することを期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員が毎月来所し、利用者の思いや相談員としての気づきを話し合い、サービスの質の向上に繋げている。		
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活状況を把握してもらうため、家族の面会時に生活記録に目を通してもらう取り組みを行っている。ホーム便りはユニットごとの暮らしぶりやお知らせを記載して年4回発行している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意向や苦情に対しては真摯に受け止め、話し合いを行っている。家族会は組織されているがレクリエーションや親睦が主で、運営への意見が出されるまでには至っていない。		家族の意見や苦情が全体のサービスに反映される取り組みとして、運営推進会議で報告し、検討されることが望ましい。また、家族会の機能として、家族の意見の集約や地域交流への参加協力等グループホームの運営への支援が得られることを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は必要に応じ行われるが、平素から利用者・職員共にユニット間の交流が図られており、異動による影響を最小限に抑える配慮が行われている。また、新任職員については一定期間現任職員に付いて研修を行い、利用者との関係作りを図っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に向けた取り組みを積極的に行っている。研修内容は記録され、内部研修の一環として全職員に報告し、共有化を図っている。外部研修に参加しやすい仕組み(柔軟な職員シフト、手当支給)があり、職員の意欲も高い。		今後は、事業所として年次計画を立て、全職員が段階的に順次レベルアップしていく体制づくりを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接市のグループホームへ利用者や訪問し、交流や情報交換が行われ、次回はそのホームの来訪が予定されている。また、グループホーム連絡協議会に所属し、情報交換や研修等連携をもった取り組みをしている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や体験入所を行い、本人の思いを尊重し、家族と相談しながら無理強いしない対応を行っている。入居後も本人の気持ちを聞き、少しずつ馴染んでいけるようきめ細かい支援を行っている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼食後、職員と利用者が和やかに声かけながら片づけをしている状況や、アルバムを見ながら思い出を話している姿が見受けられる。また、職員の口からも、利用者から励ましの言葉で精神的に支えられることもあるという話が聞かれた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握		
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの聴き取り、利用者との会話や行動から好むことや出来ること等、利用者本位の視点で思いを把握する取組を行っている。男性利用者は言葉が少ないので、プライドを傷付けない話しかけをして、思いを引き出す配慮もしている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたり全職員が利用者の情報や意見を出し合い、集約された案に利用者・家族の希望を取り入れてカンファレンスを行い、計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとの見直しを行っているが、状況の変化や家族の要望等新たな取り組みが必要な場合は、状況に即した見直しもしている。		見直しにおいても、家族や関係者の意見が反映され状況に即したものにしよう、計画作成への家族等の一層の関わりを期待したい。
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主事業として、1階の通いの利用者への配食(夕食)サービスを実施している。また、通所介護利用者と合同でレクリエーションを行い、高齢者間のふれあいや楽しみの支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症の専門医を含め、かかりつけ医の受診を継続している。かかりつけ医への情報連絡、家族の都合による受診付き添いや受診報告等の支援もやっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応として、他の医療機関や介護施設への斡旋・変更が入居契約時に合意されており、重度化・終末期に向けた対応は行っていない。		運営方針として重度化や終末期の対応を行わない場合でも、急変時の対応マニュアルを定め、職員間で話し合い共有することが望ましい。また、将来的には重度化や終末期に向けた支援が行われ、利用者・家族にとって安心のホームになることを期待したい。
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで利用者のプライバシーに配慮したケアについて具体的に話し合っている。食事中の介助や排泄の声かけ・確認において、本人のプライドを傷付けないさりげない支援を行っている。		今後、個人情報漏洩防止を含むプライバシーの確保のため、具体的なケアの手順やあり方について業務マニュアルを作成し、職員が常に意識をもって利用者のプライバシーの保護に努めることを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方においては、本人の思いや体調、無理強িশない対応で支援している。一人で自分のペースで散歩したいとの利用者の希望に、家族の了解を得た上で、応えているというケースも見られた。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や調理、盛り付けや片付けなど一連の作業を職員と一緒にを行い、出来具合を話し合っ和やかな食卓作りを行っている。調理は2ユニットが分担し、相互に運び届けており、ホーム内で助け合いと楽しさを共有している。月に2回、利用者の希望による自由献立の日がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの家庭的な浴槽は手足をゆったり伸ばせる広さで、浴槽の湯も一人ひとり張り替えて、衛生に配慮した支援を行っている。また、本人の希望や都合による時間・曜日の変更、1階の大浴場を楽しむことができるなど柔軟な支援を行っている。		
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力や生活歴から家事を中心にした役割を支援している。利用者が魚を丸ごとさばく特技を披露して、刺身料理が食卓に出されることもある。塗り絵も動物や仏画等個人の好みで選択されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は日常的に気軽に散歩や買物に出かけている。1階にある小規模多機能型事業所へは入浴や活動で定期的に出かけ、気分転換を図る取り組みもやっている。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠なく開放されている。ホームの入口のドアには鈴が付けられていて、開閉時には懐かしい音がし、出入りが確認しやすくなっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の指導の下、全館的にマニュアルに則った避難訓練を年2回実施している。マニュアルや連絡通報網が事務室に掲示されている。		消防署の監督のもと災害対策はとられているが、利用者の避難において地域の協力、隣接する企業等の社会資源を活用した体制が確立できると良い。また、夜間を想定した通報訓練も行い、職員や利用者家族に確実に連絡を取れる体制を確認しておくことも必要である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が献立を作成しており、栄養バランス・必要栄養量が確保されている。食事摂取量がチェックされ、水分摂取量共に記録をしている。利用者の好みで、居室でコーヒー・お茶が飲まれている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはゆったりした廊下に面してわかりやすく配置されている。南側はテラスのある居間・食堂で、見晴らしがよく過ごしやすい空間となっている。畳の間が3箇所に分かれて設けられており、それぞれの場でくつろいでいる利用者の姿も見られた。		壁面に多くの手作り品や写真等が飾られているが、時折模様替えを行って季節感や家庭的で落ち着いた飾り付けに工夫されることが望ましい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳を敷いている人、ベッド・ソファを使う人と好みに合わせた配置がされている。居室の飾り物は本人の生活歴や思いが感じられる物が置かれていて、安心できる空間となっている。		

は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、新年に職員と利用者でわかりやすい目標を考え、利用者を書いて頂き、掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を貼り、勤務前に読み上げる様にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に掲示し、家族や見学者にも見せてもらっている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時にあいさつ等で温かい目で見守ってくださっているのが感じとれる。地域の方のボランティアもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地と商業施設が多く、今まで自治会がなかった。今年1月に自治会が出来たところなので、あいさつに行っている。		ホーム便りを公民館に掲示してもらい、グループホームを理解して頂ける様、取り組んでいき、地元の人々と交流を図っていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型事業として小規模多機能ホームを1階にオープンする。連携していくことで、今後地域の方々の暮らしを支えていきたい。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価をする事で職員が反省、意識改革し、ケアの質の向上に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中ではまだ活発な意見交換はない。家族とは面会時に、意見要望を個人的に聞いて、サービスに活かしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からのお知らせ、パンフレット、新聞の切り抜き等を玄関に置いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。現在利用者の中に甥御さんが後見人となる手続きをしている方あり。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っている為、虐待は行っていない。職員全員も虐待しない様、徹底している。		
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居するにあたり、家族の方と疑問点、不安な点についても十分話し合いを行い、理解して頂いている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	詰所カウンターにネームプレートを置き、いつでも不満・苦情を言える雰囲気作りに心がけている。又、相談員の方に話を聞いてもらっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に介護記録に目を通して頂き、日々の様子を知らせている。又、少しの体調の変化にも家族に連絡・報告している。金銭出納長にもサインを頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口及び職員について契約時にも話し、ネームプレートをカウンターに置いている。 苦情・不満があった時は早急に対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早期退職せず、長期に渡って働いていける様、勤務時間や内容の見直し等の意見を取り入れている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットで運営しているので、必要に応じて協力体制を確保し、調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の利用者という事もあり、見慣れない職員だと部屋にこもる等、落ち着かなくなる事もあるので、人事異動は最小限としている。普段から2階から3階の行き来をして顔なじみの関係作りをして異動に対する利用者の不安を防いでいる。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会毎に研修に参加してもらい、勉強会にて全職員に報告している資料も誰もが見られる様にファイルしてある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループホームの利用者、職員がお互いの施設を行き来し、交流を深めている。お互いに、情報交換を行う事で、サービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他部署のデイサービス職員との日頃の交流の他に社員旅行、ボーリング大会、新年会等の会社としての親睦会もある。個人的な悩みも聞いてあげられる様に雰囲気作りも心がけている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回の昇給、資格手当であり。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	見学や面会の際に本人と話す機会を持ち、困っている事や不安な事を聴く様にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族が見学や申し込みに来られた際に困っている事・不安な事等よく話を聴く様にしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた時の話によっては他のサービスを勧めている事もある。その際、情報の提供も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がどういう所なのかを知る為に見学に来て頂いている。本人がまだ入るつもりがない時は家族と相談の上、入居を先に延ばし、様子を見たりもしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護するという考えではなく、共に寄り添って生活リハビリを行いながら、一緒に過ごしている。昔の習わしや郷土料理、方言等は利用者から教わっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時に家族の不安・不満に対しても、十分話を聞く様になっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には近況報告をしている。利用者の手作り作品やアルバムを見て、楽しく生活している姿を感じてもらっている。、家族との外出外食なども願っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚や友人にも面会に来てもらっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良く過ごしている時は見守る様にし、相談にのっている時は、感謝の気持ちを表している。難聴で孤立しがちな利用者に対しては、職員が間に入り、仲間作りの仲立ちをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居し、他の施設に変わられた後でも、その施設の相談員からその方の様子を聞き、又職員も面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事の継続、出来ない事に対する支援、本人のやりたい事をアセスメントしている。又、ICF理論を取り入れ、本人のしたい事を中心に考える様にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から過去の事を聞く他、昔の事をよく覚えている人達からも自然に生活歴を教えてもらっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルや排泄チェックし、健康管理を行っている。一日の過ごし方も記録に記入しながら、少しの変化でも気付ける様に心がけている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や説明時に、家族の声を聞く様になっている。職員全員に意見用紙を配り、会議までに意見を集めて計画作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回のモニタリングを行っている。必要に応じてその都度見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録を記入し、職員が目を通す様にしている。何かあった時は、ミーティングや職員全員に意見様子を配布し、カンファレンスまでに意見をまとめ、見直しをしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅に戻って生活したいと要望のある利用者に対して在宅生活が出来る方法を何点が提案し、本人、家族、居宅のケアマネと話し合いを行っている。担当者会議も行った。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の方がボランティアに来て下さっている。中学生の職場体験、ヘルパー実習の受け入れを行っている(サマーボランティア、教職員免許志願者の研修の受け入れもしている。)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が体調の変化などで退所する際、老健や他の介護福祉施設のケアマネージャーに情報提供を行い、スムーズにサービスが利用出来る様、支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援の方がいないのが現状。		前回、運営推進会議の担当をお願いしたが、断られている。今後はお願いできればと思っている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者中心に考え、かかりつけ医がある場合はそのまま継続し、受診して頂いている。変化があった時は、手紙を添える様にしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	シルバー病院、福仁会病院、医大、松原病院、県立病院に通院し、電話や手紙で近況の状態を報告する事もあり、協力医師となって下さっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	何かあった時は、かかりつけ医に連絡、事業所内の看護職員に日頃の健康管理をしてもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	グループホームに入居中である事を理解してもらい、早期退院をお願いしている。(2週間程度)		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時にも説明しているが、話し合い、説明の上で対応している。重度化した際は、老健や他施設の紹介を行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>単独の施設で終末期に向けた医療の連携はとっていない。重度化した際は、老健や療養型施設等、他施設の紹介を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居前に他の施設のケアマネや居宅のケアマネと面接し、独自のフェイスシートを作成した物を渡し、情報交換を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレの声かけ・確認は必ず他の方に聞こえない様、小声で聞く様にしている。又、人生の先輩という気持ちで対応する様、心がけている。記録は他の方に見られない様に気を付け、家族にだけ目を通してもらっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>散歩、買物、更衣等の選択場面は利用者任せ、食事も個人の希望を取り入れている。入浴の曜日は決まっているが、入る時間を決めてもらったり、受診前に入りたい、汚れたので入りたいという希望は取り入れている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースでのんびりと暮らせる様に対応している。部屋でのんびりしたい方には、部屋で過ごしてもらっている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ボランティアの美容師さんが2ヶ月に1回カットに訪れて下さり、殆どの方が利用している。髪形も個別に希望を聞いて、パーマ希望の方に対し、近隣の美容室に協力してもらい、送迎にてパーマをかけている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食の好みを聞く様にし、買物や調理、盛り付けや配膳も一緒に行っている。食後も食器拭きの手伝いもお願いしている。月に2回、自由献立の日のメニューは利用者にも考えてもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入浴後、自室でビールを飲む方や夕食後に晩酌を楽しんでいる方もいる。又、お菓子を購入し、部屋で食べている方もいる。喫煙だけは禁煙をお願いしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを使い、一人ひとりの排泄パターンを把握出来る様にしている。誘導が必要な利用者には声かけに気をつけ、誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとり入れ替えし、清潔なものとし、入浴時間も本人の希望を聞き、ゆっくり入ってもらっているのも、一日3人位としている。又、週に一回デイサービスの大きなお風呂に入り、楽しんでいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動量を増やし、生活リズムを確立している。たまに眠れない人にはホットミルクを出し、話し相手になる等している。医師処方方の眠剤を服用している方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操、散歩、食器拭き、洗濯物干し、衣類たたみ、チラシ折り等、その人が出来る事をお願いしている。男性も食料仕分けや料理を届けたり等楽しみながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで保管している利用者が多いが、自分で所持されている利用者も何名かおられる。買物の時は財布を渡し、自分で支払いをする事もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩では公園、近所、大型電気店、雑貨店等、買物ではショッピングセンター、スーパー、100円均一等、外出の機会を多く取り入れている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り、地元の敬老会や祭り、お正月の外泊等、家族とも相談し、出来る限り希望が叶うように支援している。年に2～3回外食の機会を持っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたいところにこちらが電話し、会話が出来る様にしている。年賀状のやり取りをしている方あり。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日の様に面会に来られる家族もあり、時間も自由にしてある。休憩室や自分の部屋で楽しく過ごしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項にも明記し、職員間でも申し合わせている為、一度も拘束をした事はない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しているので面会者も自由に行き来している。又、料理や食材を各階に利用者も届けに行っている。ドアにブザー及び鈴を付け、玄関の出入りには職員が気付く様になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中部屋で過ごす事が多い利用者には時々訪室し、声かけする様にしている。又、帰宅願望が強い利用者に対しても、常に見守りを行い、場合によっては落ち着くまで行動を共にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・包丁等は見えない所、届かない所に保管している。利用者の中にはハサミ等、自分で管理している方もいる。片付け場所を把握し、危険がないよう、管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、掲示の他、ファイルにして全職員が目を通せる様にしている。勉強会をして事故防止に努めている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルも作成しており、研修等により勉強の機会を作っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、全館にて避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ふらつきのある方には、入居時に転倒歴を聞き、車イスや歩行器の使用について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化でも介護記録や連絡ノートに記入し、全員が目を通して見ている。又、体調が急変した場合、かかりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルに保管し、確認しながら個人用ケースにセットしている。一人ひとりに手渡し、飲み込むまで確認している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を必ず取り入れている。又、牛乳やバナナ等も必ず午前中摂る様にしている。日中のラジオ体操や散歩も取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の歯磨きと一日2回うがいを緑茶で行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一般食1700kcal摂れる様、献立を作成している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗い、入浴時、一人ひとり浴槽のお湯の張り替えを励行している。インフルエンザ予防接種を行い、週1回、手摺り等の消毒、入出時、手の消毒も行っている。研修にも参加し、勉強会も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎夕まな板も毎回消毒している。栄養士がキッチンについて責任持って衛生管理を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	7時から20時は自動ドアをオープンにしている。各階の玄関には観葉植物を置き、利用者手作りの置き物を飾り、明るい雰囲気心がけている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に気を配り、採光が各所から取り込め、カーテン室内灯で調光している。家具は家庭的な物を置き、季節の花や利用者の作品を飾る様、工夫している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩室で面会者と会話し、小上がりの和室でござる寝する等、事由に過ごしている。半死角になる浴室前の休憩室も2~3人で会話する等、憩いの場所となっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳希望の方には畳を敷き、小引き出し、テレビ、保冷庫、ソファーや家具を事由に持ち込んで頂いている。御主人の写真・位牌・お鈴を入れている方もおられる。自分の作品の展示で自分だけの心落ち着ける場としている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室のエアコン操作は職員が行い、温度・湿度の管理をしている。又、午前・午後と換気も必ずする様、心がけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内のすべり止め、手摺り、高さ調節の出来る物干し台等設置している。キッチン作業は配膳台が低めにしており、座りながらでも出来ている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	キッチン仕事では、まず見本を見せることで自信を持って作業を行っている。分からなくなっている時はその都度説明し、不安を取り除いている。トイレや自室には目印をつけている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ下が駐車場で、面会者が帰るのを見送ったり、散歩に出る人達を見送る場所となっている。 1階庭にて草化野菜を育て、水まき・草取り等、1階の利用者と交流している。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、新年に職員と利用者でわかりやすい目標を考え、利用者を書いて頂き、掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を貼り、勤務前に読み上げる様にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に掲示し、家族や見学者にも見せてもらっている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時にあいさつ等で温かい目で見守ってくださっているのが感じとれる。地域の方のボランティアもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地と商業施設が多く、今まで自治会がなかった。今年1月に自治会が出来たところなので、あいさつに行っている。		ホーム便りを公民館に掲示してもらい、グループホームを理解して頂ける様、取り組んでいき、地元の人々と交流を図っていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型事業として小規模多機能ホームを1階にオープンする。連携していくことで、今後地域の方々の暮らしを支えていきたい。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価をする事で職員が反省、意識改革し、ケアの質の向上に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中ではまだ活発な意見交換はない。家族とは面会時に、意見要望を個人的に聞いて、サービスに活かしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からのお知らせ、パンフレット、新聞の切り抜き等を玄関に置いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。現在利用者の中に甥御さんが後見人となる手続きをしている方あり。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っている為、虐待は行っていない。職員全員も虐待しない様、徹底している。		
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居するにあたり、家族の方と疑問点、不安な点についても十分話し合いを行い、理解して頂いている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	詰所カウンターにネームプレートを置き、いつでも不満・苦情を言える雰囲気作りに心がけている。又、相談員の方に話を聞いてもらっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に介護記録に目を通して頂き、日々の様子を知らせている。又、少しの体調の変化にも家族に連絡・報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口及び職員について契約時にも話し、ネームプレートをカウンターに置いている。 苦情・不満があった時は早急に対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早期退職せず、長期に渡って働いていける様、勤務時間や内容の見直し等の意見を取り入れている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットで運営しているので、必要に応じて協力体制を確保し、調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の利用者という事もあり、見慣れない職員だと部屋にこもる等、落ち着かなくなる事もあるので、人事異動は最小限としている。普段から2階から3階の行き来をして顔なじみの関係作りをして異動に対する利用者の不安を防いでいる。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会毎に研修に参加してもらい、勉強会にて全職員に報告している資料も誰もが見られる様にファイルしてある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループホームの利用者、職員がお互いの施設を行き来し、交流を深めている。お互いに、情報交換を行う事で、サービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他部署のデイサービス職員との日頃の交流の他に社員旅行、ボーリング大会、新年会等の会社としての親睦会もある。個人的な悩みも聞いてあげられる様に雰囲気作りも心がけている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回の昇給、資格手当であり。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	見学や面会の際に本人と話す機会を持ち、困っている事や不安な事を聴く様にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族が見学や申し込みに来られた際に困っている事・不安な事等よく話を聴く様にしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた時の話によっては他のサービスを勧めている事もある。その際、情報の提供も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がどういう所なのかを知る為に見学に来て頂いている。本人がまだ入るつもりがない時は家族と相談の上、入居を先に延ばし、様子を見たりもしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護するという考えではなく、共に寄り添って生活リハビリを行いながら、一緒に過ごしている。昔の習わしや郷土料理、方言等は利用者から教わっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時に家族の不安・不満に対しても、十分話を聞く様になっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には近況報告をしている。利用者の手作り作品やアルバムを見て頂き、楽しく生活している姿を感じて頂いている。家族との外出外食などもお願いしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚や友人にも面会に来てもらっている。友人の方から近況をうかがう電話が入る事が、こちらに面会に来てくださる様、勤めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良く過ごしている時は見守る様にし、相談にのっている時は、感謝の気持ちを表している。難聴で孤立しがちな利用者に対しては、職員が間に入り、仲間作りの仲立ちをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居し、他の施設に変わられた後でも、その施設の相談員からその方の様子を聞き、又職員も面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事の継続、出来ない事に対する支援、本人のやりたい事をアセスメントしている。又、ICF理論を取り入れ、本人のしたい事を中心に考える様にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から過去の事を聞く他、昔の事をよく覚えている人達からも自然に生活歴を教えてもらっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルや排泄チェックし、健康管理を行っている。一日の過ごし方も記録に記入しながら、少しの変化でも気付く様に心がけている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や説明時に、家族の声を聞く様になっている。職員全員に意見用紙を配り、会議までに意見を集めて計画作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回のモニタリングを行っている。必要に応じてその都度見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録を記入し、職員が目を通す様にしている。何かあった時は、ミーティングや職員全員に意見様子を配布し、カンファレンスまでに意見をまとめ、見直しをしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅に戻って生活したいと要望のある利用者に対して在宅生活が出来る方法を何点が提案し、本人、家族、居宅のケアマネと話し合いを行っている。担当者会議も行った。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の方がボランティアに来て下さっている。中学生の職場体験、ヘルパー実習の受け入れを行っている(サマーボランティア、教職員免許志願者の研修の受け入れもしている。)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が体調の変化などで退所する際、老健や他の介護福祉施設のケアマネージャーに情報提供を行い、スムーズにサービスが利用出来る様、支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援の方がいないのが現状。		前回、運営推進会議の担当をお願いしたが、断られている。今後はお願いできればと思っている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者中心に考え、かかりつけ医がある場合はそのまま継続し、受診して頂いている。変化があった時は、手紙を添える様にしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	シルバー病院、福仁会病院、医大、松原病院、県立病院に通院し、電話や手紙で近況の状態を報告する事もあり、協力医師となって下さっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	何かあった時は、かかりつけ医に連絡、事業所内の看護職員に日頃の健康管理をしてもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	グループホームに入居中である事を理解してもらい、早期退院をお願いしている。(2週間程度)		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時にも説明しているが、話し合い、説明の上で対応している。重度化した際は、老健や他施設の紹介を行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>単独の施設で終末期に向けた医療の連携はとっていない。重度化した際は、老健や療養型施設等、他施設の紹介を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居前に他の施設のケアマネや居宅のケアマネと面接し、独自のフェイスシートを作成した物を渡し、情報交換を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレの声かけ・確認は必ず他の方に聞こえない様、小声で聞く様にしている。又、人生の先輩という気持ちで対応する様、心がけている。記録は他の方に見られない様に気を付け、家族にだけ目を通してもらっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>散歩、買物、更衣等の選択場面は利用者任せ、食事も個人の希望を取り入れている。入浴の曜日は決まっているが、入る時間を決めてもらったり、受診前に入りたい、汚れたので入りたいという希望は取り入れている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝、ゆっくり寝ていたい方は起きてから食事を摂る様にし、利用者のペースでのんびりと暮らせる様に対応している。部屋でのんびりしたい方には、部屋で過ごしてもらっている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ボランティアの美容師さんが2ヶ月に1回カットに訪れて下さり、殆どの方が利用している。髪形も個別に希望を聞いている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食の好みを聞く様にし、買物や調理、盛り付けや配膳も一緒に行っている。食後も食器拭きの手伝いもお願いしている。月に2回、自由献立の日のメニューは利用者にも考えてもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お菓子を購入し、部屋で食べている方もいる。喫煙だけは禁煙をお願いしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを使い、一人ひとりの排泄パターンを把握出来る様になっている。誘導が必要な利用者には声かけを気をつけ、誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとり入れ替えし、清潔なものとし、入浴時間も本人の希望を聞き、ゆっくり入ってもらっているため、一日3人位としている。又、週に一回デイサービスの大きなお風呂に入り、楽しんでいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動量を増やし、生活リズムを確立している。たまに眠れない人にはホットミルクを出し、話し相手になる等している。医師処方の方の眠剤を服用している方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操、散歩、食器拭き、洗濯物干し、衣類たたみ、チラシ折り等、その人が出来る事をお願いしている。男性も食材仕分けや料理を届けたり等楽しみながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで保管している利用者が多いが、自分で所持されている利用者も何名かおられる。買物の時は財布を渡し、自分で支払いをする事もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩では公園、近所、大型電気店、雑貨店等、買物ではショッピングセンター、スーパー、100円均一等、外出の機会を多く取り入れている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り、地元の敬老会や祭り、お正月の外泊等、家族とも相談し、出来る限り希望が叶うように支援している。年に2～3回外食の機会を持っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたいところにこちらが電話し、会話が出来る様にしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日の様に面会に来られる家族もあり、時間も自由にしてある。休憩室や自分の部屋で楽しく過ごしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項にも明記し、職員間でも申し合わせている為、一度も拘束をした事はない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しているので面会者も自由に行き来している。又、料理や食材を各階に利用者も届けに行っている。ドアにブザー及び鈴を付け、玄関の出入りには職員が気付く様になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中部屋で過ごす事が多い利用者には時々訪室し、声かける様にしている。又、帰宅願望が強い利用者に対しても、常に見守りを行い、場合によっては落ち着くまで行動を共にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・包丁等は見えない所、届かない所に保管している。利用者の中にはハサミ等、自分で管理している方もいる。片付け場所を把握し、危険がないよう、管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、掲示の他、ファイルにして全職員が目を通せる様にしている。勉強会をして事故防止に努めている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルも作成しており、研修等により勉強の機会を作っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、全館にて避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ふらつきのある方には、入居時に転倒歴を聞き、車イスや歩行器の使用について話し合いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化でも介護記録や連絡ノートに記入し、全員が目を通して見ている。又、体調が急変した場合、かかりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルに保管し、確認しながら個人用ケースにセットしている。一人ひとりに手渡し、飲み込むまで確認している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を必ず取り入れている。又、牛乳やバナナ等も必ず午前中摂る様にしている。日中のラジオ体操や散歩も取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の歯磨きと一日2回うがいを緑茶で行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一般食1700kcal摂れる様、献立を作成している。糖尿の方には少なめに盛り付けし、高血糖にならない様注意している。水分量のチェックも毎回行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗い、入浴時、一人ひとり浴槽のお湯の張り替えを励行している。インフルエンザ予防接種を行い、週1回、手摺り等の消毒、入出時、手の消毒も行っている。研修にも参加し、勉強会も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎夕まな板も毎回消毒している。栄養士がキッチンについて責任持って衛生管理を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	7時から20時は自動ドアをオープンにしている。各階の玄関には観葉植物を置き、利用者手作りの置き物を飾り、明るい雰囲気心をかけている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に気を配り、採光が各所から取り込み、カーテン室内灯で調光している。家具は家庭的な物を置き、季節の花や利用者の作品を飾る様、工夫している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩室で面会者と会話し、小上がりの和室でござる寝する等、事由に過ごしている。半死角になる浴室前の休憩室も2~3人で会話する等、憩いの場所となっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳希望の方には畳を敷き、小引き出し、テレビ、保冷庫、ソファーや家具を事由に持ち込んで頂いている。御主人の写真・位牌・お鈴を入れている方もおられる。自分の作品の展示で自分だけの心落ち着ける場としている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室のエアコン操作は職員が行い、温度・湿度の管理をしている。又、午前・午後と換気も必ずする様、心がけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内のすべり止め、手摺り、高さ調節の出来る物干し台等設置している。キッチン作業は配膳台が低めにしており、座りながらでも出来ている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	キッチン仕事では、まず見本を見せることで自信を持って作業を行っている。分からなくなっている時はその都度説明し、不安を取り除いている。トイレや自室には目印をつけている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ下が駐車場で、面会者が帰るのを見送ったり、散歩に出る人達を見送る場所となっている。 1階庭にて草化野菜を育て、水まき・草取り等、1階の利用者と交流している。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)